

# 新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（令和2年度分）

【施設の概要】（所管部記入）

施設名	児童センター（児童センター、福祉の里児童センター）		
所在地	新座市本多1-3-10、新座市新塚1-4-5	所管部署	こども未来部 こども支援課
制度導入年度	平成22年度	選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 / <input type="checkbox"/> 指名
指定管理者	名称 特定非営利活動法人新座子育てネットワーク	所在地	新座市菅沢1-4-5
	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日（5年間）	

【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴う不安定な社会状況下でも、子どもの健全育成のため、遊び・学び・ふれあいの三つの柱を基本に、0歳から18歳までの子どもの心身の発達に応じたきめ細かな事業運営や支援を行った。臨時休館後は事業が一律中止となったものの、計画していた事業に代わる取り組みや新たな遊びを季節性にも配慮しながら提供した。事業再開後は事業目的を明確にし、実施後は評価と見直しを合わせて行った。事業は①子どもの健全育成事業（子どもの遊びと学び事業（全学年、小学生、乳幼児の対象別））、②相談事業、③子ども参画事業、④中高生の居場所事業、⑤要支援児童事業、⑥親支援事業（母親・父親）⑦地域連携・異世代交流事業、⑧情報提供事業、⑨運営協議会等の9分野にわたり、令和2年度は2館合計で開催数912回、延べ参加者数4,383人となった。また、4～5月は緊急事態宣言に伴い各館50日間に渡り休館し、開館日数が例年よりも大幅に減少したほか、感染防止対策として定員や時間制限を設けたため、来館者数は2館合計で30,813人と、例年の30%程度となった。</p>
------	--

※ 運営において創意工夫した点や指定管理者の提案による新たな取組等を記載

特筆事項	<p>令和2年度も新座市児童センターと新座市福祉の里児童センターの2館で、効率的な運営を図るため、情報の共有や事業連携、職員研修の強化に努めた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため6月まで臨時休館となったが、インターネットを活用した積極的な情報発信や、近隣の公園や緑道の巡回を行い、子どもの健全育成と、子育て中の保護者の支援に努めた。また緊急事態宣言中は法人所有のchromebookとクラウドシステムを活用して迅速にテレワークへ移行し、職員の感染防止を行った。再開にあたっては感染防止対策案をこども支援課に提出し、利用者の安心・安全を最優先とした施設運営をしながら、三密を避けた遊びの提供や段階的な事業再開を行った。従来の利用方法とは大きく異なる定員や時間制限を設けた利用方法はHPやSNSを活用して広く周知し、来館者1人1人へ丁寧な説明を行い、理解・協力を得られるよう努めた。また、施設内の消毒リストを作成し1日4回の消毒を行ったほか、手指消毒液等の衛生用品は予算管理表を別途作成し、支出状況の把握と適切な予算管理を行った。</p>
------	--

●令和2年度は事業一律中止の対応として、両館ともに来館時にいつでも遊べる、三密を避けた遊びの提供を行った。新座市児童センターでは、館内外を利用したラリー形式の遊びに延べ1,086人が参加したほか、自宅に持ち帰って楽しむ「作ってあそぼう！工作キット」を延べ1,937人に配布した。福祉の里児童センターでは地域のイベントや学校行事が中止となったことを受け、「季節のあそび」として「おまつり」や「ハロウィン」をテーマに工作やミニゲームを行い、延べ2,282人が参加した。また、両館ともに常設の工作コーナーを新設したほか、館内レイアウトの変更や季節感のある装飾で館内を明るく飾り付け、子どもから大人までが居心地よく過ごせる環境整備に努めた。コロナ禍での取り組みは厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策からの気づき 児童館における実践事例・データ集」（令和2年度版）に実践事例として紹介された。

●「中高生の居場所としての児童センター」は地域に定着し、令和2年度は2館合計で1,772人の中高生が利用した。コロナ禍で地域の中の高生の居場所が減少するなか、中高生が来館した際には丁寧な関わりの中で関係づくりに努め、中高生が思い思いに自由に過ごせる環境づくりを行った。新座市児童センターでは新たにマットを購入してのんびりと過ごせるスペースを増設したほか、年度末には「中高生のさまぐれカフェ 卒業パーティー」を開催し、中高生同士や中高生と職員が交流する機会を作った。福祉の里児童センターでも、17時15分からの中高生タイムを目指して来館する中高生が、卓球やパソコン、ゲームに夢中になったり、漫画を読む、職員と話す、仲間同士でダンスの練習をするなど、思い思いに過ごせる中高生タイムが定着している。また、学校や家庭に居場所がない中学生数名が職員との交流を通して児童センターを居場所と感じ、頻繁に来館している。

●障がいがある子どもと保護者が交流する事業を継続して実施した。新座市児童センターでは、令和元年度に「豊かな地域社会づくり推進事業」の助成を受けて構築した事業「障がいのある子どもと家族の音楽活動 アフリカボレボレ」の参加者を対象にGoogle Meetを使用したオンライン交流会を実施し、コロナ禍においても障がい児家族同士がつながりを持つ機会を提供した。また、団体利用受け入れ再開時は、コロナ禍で遊び場が減少していた放課後等デイサービスに個別に利用案内を送付し、児童センターが多様な子どもたちの居場所となるよう努めた。

●平成27年度から取り組みを始めた子どもの貧困対策事業は、コロナ禍で経済的な影響を受けた子育て中のひとり親家庭・経済困窮家庭等に無償で食品や日用品を配付する「フードパントリー」を新たに開催した。小学校の長期休みの時期に合わせて2回開催し、両センター合わせて133家庭へ配付した。食品はフードバンクや地域の商店・企業等へ寄付を依頼したほか、食糧費を活用して充実した食の支援を行った。こども支援課や生活支援課、民生委員・児童委員、小学校等の協力を得て該当家庭への周知に努めた。また、配布準備ではまちぐるみこども応援団の協力を得て実施する等、地域のさまざまな団体と連携し実施した。地域で子どもの貧困について考える「新座ほっこりネットワーク」は、立教大学や彩の国子ども・若者ネットワークとの連携を重ね5回目の実施となった。子ども食堂を運営する団体や、貧困対策にかかわる団体、新座市役所、市議会議員など、様々な参加者がワークショップを通して意見交換を行い、課題を共有し、今後の活動を考えるネットワークの構築を図った。また、子育てグッズの交換コーナー「はあとBOX」を開催したところ反響が大きく、49日間開催し、のべ1767人が利用した。

【総合評価】

指定管理者の自己評価				
総合評価	S	<input type="checkbox"/>	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	<input checked="" type="checkbox"/>	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	<input type="checkbox"/>	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	児童センターの設置目的を理解し、利用サービスの向上、組織および施設の管理、経費の取扱い等に工夫しながら、適切且つ誠実に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、臨時休館や利用制限下等の状況であっても柔軟に対応し、社会状況・開館状況に合わせた施設運営を創意工夫して行った。			
改善策	※ 評価Bの場合のみ記入			

市の評価				
総合評価	S	<input type="checkbox"/>	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	<input checked="" type="checkbox"/>	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	<input type="checkbox"/>	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	社会状況や開館状況に合わせて柔軟に対応し、創意工夫した事業の提供など利用サービスの向上に努めている。引き続き、適切な管理運営に努めていただきたい。			

【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】（指定管理者記入）

令和3年度も引き続きコロナ禍による子ども・子育て世帯への影響が懸念される。社会状況や子ども・子育て世帯の状況の把握に努め、新座の子どもたちの育成に必要とされる支援の提供に努めたい。  
特に、ひとり親家庭や生活困窮家庭等、支援を必要とする家庭へは、地域の皆様のご協力も呼びかけながら、フードパントリー等の活動が継続できるよう取り組んでいきたい。新座市のご協力・ご支援も、どうぞよろしくお願いいたします。

【過年度の評価結果まとめ】（所管部記入）

評価区分	H30年度 (1年目)	R元年度 (2年目)	R2年度 (3年目)	年度 (年目)	年度 (年目)
指定管理者の自己評価	A	A	A		
市の評価	A	A	A		